

令和7年度  
実務経験のある教員等による授業科目

看護学科 教育課程

3 専門分野

科目	第1年次		第2年次		第3年次		単位数	時間数	実務 経験
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎看護学									
看護の展開			30				1	30	◎
基礎看護技術Ⅰ	30						1	30	◎
基礎看護技術Ⅱ	30						1	30	◎
基礎看護技術Ⅲ		30					1	30	◎
基礎看護技術演習Ⅰ	45						1	45	◎
看護研究			30				1	30	◎
看護研究演習						15	1	15	◎
老年看護方法論Ⅰ-1			30				1	30	◎
老年看護方法論Ⅰ-2				30			1	30	◎
母性看護方法論Ⅰ-2				30			1	30	◎
母性看護方法論Ⅱ				15			1	15	◎
小計	105	30	90	75	0	15	11	315	

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
看護の展開 (実務経験のある教員等による授業科目)	水田 あき	2	1	前期	必修

◇講義概要

看護過程についての講義と事例を用いた演習を実施し、発表により学生間で意見交換を行う。

◇到達目標

1. 看護過程の構成要素（アセスメント・看護診断・計画立案・実施・評価）の意味と方法を説明することができる。
2. ゴードンの機能的健康パターンをアセスメントの枠組みとして活用し、系統的に情報収集し、アセスメントし、看護上の問題点を抽出することが出来る。
3. アセスメントに基づいた看護計画の立案が出来る。
4. 看護計画の評価の視点を理解し、説明できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	看護過程とは何か。看護過程の構成要素	講義	
第2回	アセスメント（情報収集と分析）	講義	
第3回	ゴードンの機能的健康パターンの理論的背景	講義	
第4回	ゴードンの機能的健康パターンの各クラスターにおける分析の視点	講義	
第5回	情報の分類・整理、解釈・分析、看護問題の抽出方法と関連図	講義・演習	
第6回	看護診断（1）看護診断とは。看護診断の記述法。	講義	
第7回	看護診断（2）解釈から看護診断をつけるまでの方法	講義	
第8回	看護診断（3）関連図を用いた看護診断の統合	講義・演習	
第9回	看護診断の優先順位と看護計画の目的と概要	講義	
第10回	看護計画の具体的な立案方法	講義・演習	
第11回	看護目標とは	講義・演習	
第12回	看護計画の発表	演習	
第13回	看護計画の発表	演習	
第14回	SOAP 記録について	演習	

令和7年度 看護学科 シラバス

第15回	評価とは・終講試験	講義・試験	
評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 ( 50 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (        %) <input type="checkbox"/> 演習評価 (        %) <input type="checkbox"/> 小テスト (        %) <input checked="" type="checkbox"/> レポート ( 50 %) <input type="checkbox"/> その他 (        %)		
教科書	系統看護学講座, 専門Ⅱ基礎看護技術 I    医学書院 看護がみえる vol.4 看護過程の展開    メディックメディア		
参考図書	ゴードン博士の看護診断アセスメント指針    照林社 看護診断ハンドブック    医学書院		
留意事項	講義後、講義内で提示した課題に取り組む(60分)適宜、講義前に提出を指示します。		

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護技術 I コミュニケーション・記録報告 環境調整・感染予防・安全管理 (実務経験のある教員等による授業科目)	矢追裕子・花田匡子・山本桂・尾崎あい	1	1	前期	必修

◇講義概要

対象者の生活環境を整える技術を習得する

◇到達目標

- 療養生活の中で、対象の生活スタイルに配慮し、室内の気候、空気の清浄性やにおい、光・音などの環境条件を整えることの必要性和看護の役割が理解できる
- コミュニケーションの特徴と、医療におけるコミュニケーションの重要性を理解できる
- 看護記録の目的と留意点、その構成が理解できる
- 医療現場における「報告・連絡・相談」の重要性を理解できる
- 感染成立の条件および院内感染防止の基本を知り、看護師が感染防止のための実践を行う重要性を理解できる
- 標準予防策・感染経路別予防策の必要性和方法を理解できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	担当者
第1回	環境調整①：療養生活の環境・病室の環境のアセスメントと調整	講義	矢追 裕子
第2回	環境調整②：ベッド周囲の環境整備	講義	矢追 裕子
第3回	環境調整③：シーツのたたみ方・ベッドメイキング	講義・演習	矢追 裕子
第4回	環境調整④：リネン交換	講義・演習	矢追 裕子
第5回	コミュニケーション技術①：コミュニケーションの意義と目的	講義・GW	花田 匡子
第6回	コミュニケーション技術②：非言語的メッセージ、傾聴技法、オープン・クエスチョン、クローズド・クエスチョン	講義・GW	花田 匡子
第7回	コミュニケーション技術③：アサーティブネス、コミュニケーション障害への対応	講義・GW	花田 匡子
第8回	感染予防に関する技術①：感染防止の基礎知識・標準予防策	講義	山本 桂
第9回	感染予防に関する技術②：感染経路別予防策	講義	山本 桂
第10回	感染予防に関する技術③：洗浄・消毒・滅菌	講義	山本 桂
第11回	感染予防に関する技術④：感染性廃棄物の取り扱い・針刺し防止策	講義	山本 桂
第12回	看護にかかわる記録・報告①：看護記録とは・記録、管理における留意点・看護記録の構成	講義・GW	山本 桂
第13回	看護にかかわる記録・報告②：報告	講義・GW	山本 桂
第14回	安全を守る技術	講義・GW	尾崎 あい
第15回	終講試験 (60分)・まとめ (30分)	講義・試験	花田 匡子

評価方法	■筆記試験 ( 100 %)	□実技試験 (        %)	□演習評価 (        %)
	□小テスト (        %)	□レポート (        %)	□その他 (        %)

令和7年度 看護学科 シラバス

教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院. 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院. 基礎・臨床看護技術 第3版
参考図書	看護がみえる vol.① 基礎看護技術 メディック・メディア 看護がみえる vol.② 基礎看護技術 メディック・メディア
留意事項	講義前には当該講義部分の教科書を読んてくること(予習30分)。講義後は、該当部分の基礎・臨床看護技術の手順を読み、動画があるものは視聴すること。また、当日の概要・ポイントをノートにまとめるなど復習に励むこと。(復習60分)

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護技術Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	花田匡子・尾崎あい・福田裕里加	1	1	前期	必修

◇講義概要

人間の基本的欲求に基づく日常生活活動への援助技術を知り、基本的技術を修得する。

◇到達目標

- 1、生活において姿勢を保ち活動を整える意義と効果的な援助のための看護技術が理解できる
- 2、睡眠・休息の意義と必要性、安楽・安眠への援助技術が理解できる
- 3、清潔・衣生活の意義と対象の健康状態に合わせた援助技術が理解できる
- 4、排泄の意義と、ニーズに応じた援助方法の選択および看護技術が理解できる
- 5、食事と栄養の意義と必要性、ニーズに応じた援助技術が理解できる
- 6、電法・マッサージ・部分浴の意義・目的と、健康状態に合わせた援助技術が理解できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	「活動」 基本的活動の援助 (体位、体位変換)	講義	尾崎 あい
第2回	「姿勢・体位・活動」 体位保持、移動・移乗・移送	講義	尾崎 あい
第3回	「睡眠・休息」 睡眠と休息の援助	講義	尾崎 あい
第4回	「循環 (電法)」 体温管理の技術、末梢循環促進のためのケア	講義	尾崎 あい
第5回	「食事と栄養」 ①食事援助の基礎知識	講義	尾崎 あい
第6回	「食事と栄養」 ②食事介助、摂食・嚥下訓練・口腔ケア	講義	尾崎 あい
第7回	「食事と栄養」 ③非経口栄養摂取の援助	講義	尾崎 あい
第8回	「清潔・衣生活」 ① 清潔の基礎知識と清潔援助の効果 患者の状態に応じた援助の決定と留意点	講義	花田 匡子
第9回	「清潔・衣生活」 ②病床での衣生活の援助	講義	花田 匡子
第10回	「清潔・衣生活」 ③ 入浴・シャワー浴・全身清拭 部分浴 (足浴・手浴)	講義	花田 匡子
第11回	「清潔・衣生活」 ④洗髪・整容	講義	花田 匡子
第12回	「排泄」 ①自然排尿及び自然排便の基礎技術と介助の実際	講義	福田裕里加
第13回	「排泄」 ②導尿 (一時的導尿・持続的導尿)	講義	福田裕里加
第14回	「排泄」 ③排便を促す援助 (浣腸・摘便) ストーマケア	講義	福田裕里加
第15回	終講試験 (60分)・まとめ (30分)	講義・試験	尾崎 あい

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 ( 100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (        %) <input type="checkbox"/> 演習評価 (        %) <input type="checkbox"/> 小テスト (        %) <input type="checkbox"/> レポート (        %) <input type="checkbox"/> その他 (        %)
------	--

教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院. 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院. 根拠と自己防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版
参考図書	
留意事項	講義前には当該講義部分の教科書を読んできて (予習 30分)。講義後は、該当部分の基礎・

## 令和7年度 看護学科 シラバス

	臨床看護技術の手順を読み、動画があるものは視聴すること。また、当日の概要・ポイントをノートにまとめるなど復習に励むこと。(復習 60分)
--	--

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護技術Ⅲ 与薬・包帯法・創傷管理・輸血・呼吸・診察・検査 (実務経験のある教員等による授業科目)	矢追裕子・花田匡子 福田裕里加・尾崎あい	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

診察・検査時の対象に応じた援助の基礎と、医療処置における看護の役割と具体的な方法を学ぶ
---

◇到達目標

<ol style="list-style-type: none"> <li>1、診察と検査の目的がわかり、診察、検査を受ける対象への看護技術が理解できる</li> <li>2、輸血・与薬の目的と意義を理解し、医療安全の視点から安全に実施するための方法と、実施時のアセスメントの視点が理解できる</li> <li>3、酸素療法・吸引・吸入の意義・目的を理解し、対象に応じた看護の役割とアセスメントの視点を考えることができる</li> <li>4、包帯法・創傷管理の意義・目的がわかり、看護の必要性が理解できる</li> </ol>
---

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	呼吸・循環を整える技術：酸素吸入療法	講義	尾崎あい
第2回	呼吸・循環を整える技術：排痰ケア・胸腔ドレナージ	講義	尾崎あい
第3回	呼吸・循環を整える技術：吸入・人工呼吸療法・末梢循環促進ケア	講義	尾崎あい
第4回	診察・検査：検体検査	講義	矢追裕子
第5回	診察・検査：生体情報のモニタリング	講義	矢追裕子
第6回	診察・検査：診察・検査・処置の介助技術	講義	矢追裕子
第7回	与薬：与薬の基礎知識、薬物療法の意義、看護師の役割	講義	福田裕里加
第8回	与薬：経口与薬・吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬の援助方法	講義	福田裕里加
第9回	与薬：注射の基礎知識と援助方法① 皮下注射・筋肉注射・皮内注射	講義	福田裕里加
第10回	与薬：注射の基礎知識と援助方法② 静脈内注射・輸液ポンプ・シリンジポンプの管理	講義	福田裕里加
第11回	輸血：輸血の意義・目的・種類・副作用・保存・投与	講義	花田匡子
第12回	包帯法と創傷の管理：創傷管理の基礎知識	講義	花田匡子
第13回	包帯法と創傷の管理：包帯法、創傷処置	講義	花田匡子
第14回	包帯法と創傷の管理：褥創予防（褥創発生のメカニズム）	講義	花田匡子
第15回	終講試験（60分）まとめ（30分）	試験・まとめ	福田裕里加

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験（100%） <input type="checkbox"/> 実技試験（ % ） <input type="checkbox"/> 演習評価（ % ） <input type="checkbox"/> 小テスト（ % ） <input type="checkbox"/> レポート（ % ） <input type="checkbox"/> その他（ % ）
------	---

教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院
参考図書	適宜動画などを使用します 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院
留意事項	解剖学・生理学ともつなげて学習するように努めてください。

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護技術演習 I (実務経験のある教員等による授業科目)	矢追裕子・山本 桂・花田匡子・尾崎あい	1	1	前期	必修

◇講義概要

基礎看護技術を実際に行い、安全性と安楽に考慮した手順を考える能力を修得する

◇到達目標

- 1、安全・安楽を考慮し、看護技術の必要性や対象者に応じた手順を考えることができる
- 2、対象に応じた看護技術を、科学的根拠に基づいて安全・安楽に実施できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	「コミュニケーション技術」プレゼンテーション	演習	花田 匡子
第2回	「感染予防策・記録報告」①手指衛生、個人防護用具	演習	山本 桂
第3回	「感染予防策・記録報告」②無菌操作	演習	山本 桂
第4回	「環境調整」ベッドメイキング	演習	矢追 裕子
第5回	「活動・体位・姿勢」①体位、臥床時の体位変換	演習	尾崎 あい
第6回	「活動・体位・姿勢」②ベッドから車椅子の移乗・移送	演習	尾崎 あい
第7回	③ベッドからストレッチャーへの移乗・移送	演習	尾崎 あい
第8回	「休息・睡眠」睡眠・休息を促す援助、体位保持(ポジショニング)	演習	尾崎 あい
第9回	「清潔・衣生活」全身清拭と寝衣交換①	演習	花田 匡子
第10回	「清潔・衣生活」全身清拭と寝衣交換②	演習	花田 匡子
第11回	「清潔・衣生活」全身清拭と寝衣交換③	演習	花田 匡子
第12回	「清潔・衣生活」全身清拭と寝衣交換④	演習	花田 匡子
第13回	「清潔・衣生活」洗髪①	演習	花田 匡子
第14回	「清潔・衣生活」洗髪②	演習	花田 匡子
第15回	「排泄」①床上排泄援助(尿器、便器)、オムツ交換	演習	矢追 裕子
第16回	「排泄」②一時的導尿援助と持続的導尿援助の実際	演習	矢追 裕子
第17回	「排泄」③グリセリン浣腸、摘便 ④ストーマケアの援助	演習	矢追 裕子
第18回	「食事と栄養」①食事援助	演習	尾崎 あい
第19回	「食事と栄養」②口腔ケア・嚥下訓練	演習	尾崎 あい
第20回	「食事と栄養」③経鼻胃チューブの管理・経管栄養法	演習	尾崎 あい
第21回	「循環(電法)」温電法、冷電法、マッサージ	演習	尾崎 あい
第22回	「環境調整」ベッドメイキング 技術試験	試験	矢追 裕子
第23回	「清潔援助」全身清拭と寝衣交換 技術試験	試験	花田 匡子

評価方法	□筆記試験( )% ■実技試験(100%) 「ベッドメイキング」で50%、「全身清拭と寝衣交換」で各50% □演習評価( )% □小テスト( )% □レポート( )% □その他
------	--

令和7年度 看護学科 シラバス

教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学Ⅱ 医学書院. 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学Ⅲ 医学書院. 基礎・臨床 看護技術 医学書院 第3版
参考図書	看護がみえる vol.① 基礎看護技術 メディック・メディア 看護がみえる vol.② 基礎看護技術 メディック・メディア
留意事項	演習時の服装と準備物は、担当教員から指示されたもので臨むこと。 「リネン交換」「全身清拭と寝衣交換」の技術試験は各々の試験で6割以上の評価を受けること をもって合格とする。

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
看護研究演習 (実務経験のある教員等による授業科目)	山本 桂	3	1	後期	必修 選択

◇講義概要

看護に必要な研究的思考を身につけるために看護研究の基本的な考え方とプロセスを学び、看護の質向上に向けた研究能力の基盤を養う

◇到達目標

1. 看護実践を振り返り、自分の課題について必要なポイントをふまえた研究計画の構成要素を理解し、研究計画書（背景・動機まで）を作成できる
2. 倫理的配慮を考えることができる
3. 文献検討を行い多様な考え方を学ぶことができる
4. 研究のプロセスを理解することができる
5. 作成した研究計画に沿って課題を探究し、ケーススタディを作成できる
6. 聴き手に伝わりやすい発表ができる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	原著論文とは	講義	
第2回	原著論文の実際（各教員）	演習	
第3回	原著論文の実際（各教員）	演習	
第4回	文献検索とクリティーク	講義・演習	
第5回	抄録の実際	講義・演習	
第6回	効果的なスライド作成と読み原稿について	講義	
第7回	スライドと読み原稿の作成（各教員）	演習	
第8回	ケーススタディの発表（45分）	演習	

評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験（        %） <input type="checkbox"/> 実技試験（        %） <input type="checkbox"/> 演習評価（        %） <input type="checkbox"/> 小テスト（        %） <input checked="" type="checkbox"/> レポート（ 100 %） <input type="checkbox"/> その他（        %）
------	---

教科書	看護研究、医学書院
参考図書	松本、森田編、看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方、講談社、2015 高橋監修、看護学生のためのケーススタディ、メヂカルフレンド社、2016
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出期限は遵守すること</li> <li>・「講義」の日は、教室にて受講すること</li> <li>・発表の日と講評の日の両日出席をもって評価対象とする</li> </ul>

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
看護研究 (実務経験のある教員等による授業科目)	水田 あき	2	1	前期	必修

◇講義概要

看護に必要な研究的思考を身につけるために看護研究の基本的な考え方とプロセスを学び、看護の質向上に向けた研究能力の基盤を養う

◇到達目標

1. 看護研究の意義と必要性について理解する
2. 文献検索の方法を知り、実際にテーマに沿って検索できる
3. 研究のプロセスや研究デザイン、文献検討について理解する
4. 研究計画の構成要素を理解し、研究計画書（背景・動機まで）を作成できる
5. 研究論文のまとめ方を理解する
6. ケーススタディの進め方を理解できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	看護研究とは	講義	
第2回	調べたことを発表しよう	演習	
第3回	文献検索・文献クリティーク	講義	
第4回	研究における倫理的配慮	講義	
第5回	研究デザインと方法	講義	
第6回	データ収集	講義	
第7回	データ分析・実際にインタビュー	講義・演習	
第8回	実際にデータ分析・まとめ	演習	
第9回	まとめ・発表・次の研究テーマを考える	演習	
第10回	文献の整理、質問紙の作成	演習	
第11回	データの収集・分析を実際に行う	演習	
第12回	研究成果をまとめる①	演習	
第13回	研究結果をまとめる②	演習	
第14回	研究結果を伝える（発表）	演習	
第15回	終講試験（60分）・まとめ（30分）	試験/まとめ	

評価方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験（ 50 %）	<input type="checkbox"/> 実技試験（ %）	<input type="checkbox"/> 演習評価（ %）
	<input type="checkbox"/> 小テスト（ %）	<input type="checkbox"/> レポート（ 50 %）	<input type="checkbox"/> その他（ %）

教科書	看護研究、医学書院、2024
参考図書	
留意事項	講義前には、教科書の該当ページを読んでおくこと。 講義後はレジュメとまとめプリントを学習すること。

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
老年看護方法論Ⅰ-1 (実務経験のある教員等による授業科目)	阪本 由美	2	1	前期	必修

◇講義概要

教育目的	加齢に伴う障害や疾病をもつ高齢者の生命維持・健康回復促進のための看護の基礎知識・技術を習得する。
授業概要	老化による障害や疾病を持つ高齢者の生命維持、健康維持のための看護の必要性を判断し、実践の方法を習得する。

◇到達目標

1. 高齢者の生活機能や生理的特徴を理解する。
2. 高齢者特有の症状の現れ方や罹患しやすい疾病を関連づけて学び、高齢者のQOLを高める具体的な看護の知識・技術を理解する。
3. 生活・療養の場における高齢者の看護を理解する。
4. 高齢者のリスクマネジメントを理解する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	高齢者の生活機能を整える看護	講義	
第2回	日常生活を支える基本的活動（転倒のアセスメントと看護）	講義	
第3回	日常生活を支える基本的活動（廃用症候群のアセスメントと看護）	講義	
第4回	食事・食生活と看護	講義	
第5回	排泄の看護	講義・GW	
第6回	清潔の看護	講義・GW	
第7回	高齢者の生活リズムとコミュニケーション	講義	
第8回	症候のアセスメントと看護（発熱）	講義	
第9回	症候のアセスメントと看護（痛み・掻痒）	講義	
第10回	症候のアセスメントと看護（脱水・浮腫・倦怠感）	講義	
第11回	認知機能障害のある高齢者の看護（うつ・せん妄・認知症）	講義	
第12回	治療を必要とする高齢者の看護（検査・手術・リハビリテーション）	講義	
第13回	エンドオブライフケア	講義・GW	
第14回	高齢者のリスクマネジメント (高齢者と医療安全・救命救急・高齢者と災害)	講義	
第15回	まとめ 終講試験	講義	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験（ 90 %） <input type="checkbox"/> 実技試験（     %） <input type="checkbox"/> 演習評価（     %） <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト（     %） <input type="checkbox"/> レポート（     %） <input type="checkbox"/> その他（ 10 %）
------	---

教科書	系統看護学講座、専門Ⅱ、老年看護学、医学書院。 系統看護学講座、専門Ⅱ、老年看護学 病態・疾患論、医学書院
参考図書	授業の中で、必要に応じて提示します
留意事項	授業前に該当範囲の予習（テキスト学習）30分をすること。授業後、レジメ復習、小テストのやり直し（30分）をすること。小テストのやり直しは、適宜提出を指示する。

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
老年看護学方法論 I - 2 (実務経験のある教員等による授業科目)	阪本 由美	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

老化による障害や疾病を持つ高齢者の生命維持、健康維持のための看護の必要性を判断し、実践の方法を習得する
---

◇到達目標

1. 高齢者の疾病・障害の特徴を理解する
2. 加齢変化と高齢者に多い疾患と治療を関連づけて学び、具体的看護の知識・技術を理解する

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	老年看護に求められるものとは（高齢社会の現状・高齢者医療の現状）	講義	
第2回	高齢者の生理的特徴（老化と寿命・身体的変化）	講義	
第3回	老年症候群の特徴（各器官の生理的变化） うつ・せん妄	講義	
第4回	認知症の概念、症状と診断基準、治療について	講義	
第5回	高齢者のフィジカルアセスメント（CGAとは、方法と理解）	講義	
第6回	高齢者のフィジカルアセスメント（方法と注意点）	講義	
第7回	高齢者に起こる脳血管疾患	講義	
第8回	高齢者に起こる脳血管疾患	講義	
第9回	高齢者にみられる疾患の特徴	講義	
第10回	高齢者にみられる疾患の特徴	講義	
第11回	高齢者にみられる疾患の特徴	講義	
第12回	高齢者にみられる疾患の特徴	講義	
第13回	高齢者にみられる疾患の特徴	講義	
第14回	高齢者と薬・高齢者のリハビリテーションについて	講義	
第15回	まとめ（30分）・終講試験（60分）	講義・試験	

評価方法	■筆記試験（ 90% ） □実技試験（           % ） □演習評価（           % ）
	□小テスト（           % ） □レポート（           % ） ■その他（ 10% ）

教科書	系統看護学講座：老年看護学（専門2）・病態、疾患論
参考図書	授業の中で紹介します
留意事項	<p>*教科書を持参してください。教科書中心に講義を進めます。</p> <p>*授業の進行に合わせたまとめテストを適宜実施します。授業前に該当箇所のテキストを読む（30分）。授業終了後レジメの復習、小テストのやり直しを実施すること。（30分）</p> <p>*グループワークは適宜行います。</p>

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
母性看護方法論 I-2 (実務経験のある教員等による授業科目)	矢追 裕子	2	1	後期	必修

◇講義概要

<p>教育目的 分娩期・産褥期の産婦・褥婦・および新生児の社会的、心理的、身体的変化への適応を理解するとともに、産婦のセルフケア能力をアセスメントし、母子と家族へ健康障害の予防や健康増進を促す看護援助を学ぶ。</p> <p>授業概要 産褥婦・新生児期の特徴を理解し、母子を取り巻く環境をふまえた看護援助を学ぶ。</p>
---

◇到達目標

<ol style="list-style-type: none"> <li>1、分娩期・産褥期の産婦の社会的、心理的、身体的変化とそれらへの適応を理解する。</li> <li>2、分娩期・産褥期の産婦のセルフケアや健康障害の予防、健康増進を促す看護援助を理解する。</li> <li>3、分娩期・産褥期の母子の家族への看護援助についても理解できる。</li> <li>4、新生児の子宮外生活への適応と看護援助について理解できる。</li> <li>5、産婦・褥婦の親役割の習得過程及び親子関係形成への看護援助について理解できる。</li> </ol>
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	分娩期に関する基礎知識 (分娩の定義・分娩の3要素・分娩の機序)	講義・GW	矢追 裕子
第2回	分娩の経過 (正常分娩の経過・分娩時の母体と胎児の変化・分娩監視装置)	講義・GW	矢追 裕子
第3回	分娩期における看護	講義・GW	矢追 裕子
第4回	分娩の異常と看護 (陣痛の異常 産道の異常 回旋異常 胎児機能不全 遷延分娩 弛緩出血)	講義・GW	矢追 裕子
第5回	産褥期における身体的変化・心理社会的変化	講義・GW	矢追 裕子
第6回	産褥期における看護	講義・GW	矢追 裕子
第7回	産褥期におこりうる異常とその対応 (子宮復古不全 子宮内感染症 乳腺炎 血栓症 マタニティブルーズ 産後うつ) 帝王切開術前後の看護	講義・GW	矢追 裕子
第8回	新生児期の生理的变化 (出生直後の呼吸・循環の変化 胎外生活への適応)	講義・GW	矢追 裕子
第9回	新生児期における看護 (出生直後のケア 入院中の看護 検査)	講義・GW	矢追 裕子
第10回	新生児期の身体計測・バイタルサイン測定・沐浴	演習	矢追 裕子
第11回	新生児期の栄養と授乳・母乳育児支援	講義・GW	矢追 裕子
第12回	新生児期におこりうる異常とその対応 (分娩時外傷 高ビリルビン血症 低出生体重児 呼吸障害 低血糖 低体温 ビタミンK欠乏性出血症)	講義・GW	矢追 裕子
第13回	分娩期・産褥期・新生児期の看護のまとめ	講義・GW	矢追 裕子
第14回	実技試験 (沐浴)	試験	矢追 裕子
第15回	終講試験【60分】・まとめ【30分】	試験+まとめ	矢追 裕子

令和7年度 看護学科 シラバス

評価方法	■筆記試験 ( 50 %)	■実技試験 ( 30 %)	□演習評価 ( %)
	□小テスト ( %)	■レポート ( 20 %)	□その他 ( %)

教科書	<p>系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院          母性看護学Ⅱ 周産期各論 第2版 医歯薬出版          根拠がわかる母性看護技術 南江堂</p>
参考図書	<p>メディックメディア 病気が見える vol 10 産科          医学書院 根拠と事故防止からみた 母性看護技術 (第3版)</p>
留意事項	<p>事前学習          教科書を読んでおく。家族に自分が生まれたときの話を聞いてくる。自分の母子健康手帳や自分の子どもの母子健康手帳を探して見ておく。自分の臍帯の箱もあれば外書き及び中身を見ておく。</p> <p>自己学習          該当箇所の教科書(母性看護学Ⅱ 医歯薬出版)を講義までに読んでおくこと。          (第1回～第4回)          「分娩のまとめ」(実習の事前学習)を作成する。          (第5回～第7回)          「産褥期のまとめ」(実習の事前学習)を作成する。          (第10回)          第10回までに身体計測・新生児のバイタルサイン・沐浴の具体的援助策を作成する。(手書き)          (第8回～第12回)          「新生児期のまとめ」(実習の事前学習)を作成する。</p>

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
母性看護方法論Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	矢追 裕子	2	1	後期	必修

◇講義概要

周産期にある母体の生理的变化と胎児・新生児の成長・発達や胎外生活適応への過程に関する理解を踏まえ、母体及び胎児・新生児のより良い健康を保持・強化するためのアセスメントを行って看護過程を展開する。演習を通して周産期看護に必要な看護技術を習得する。

◇到達目標

- (1) 妊婦・産婦・褥婦および新生児の各期の経過を理解できる
- (2) ウェルネスの視点で、母子とその家族のセルフケア能力のアセスメントを行い、正常な経過をたどれるように看護を展開できる。
- (3) 周産期にある対象に援助を実施するための基本的な能力を養う。  
(モデル人形を用いて沐浴ができる。)

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	看護過程① 母性アセスメント用紙の書き方 情報収集	グループワーク	
第2回	看護過程② 看護問題 事例の情報収集 看護過程の展開 アセスメント用紙 関連図 看護問題 看護計画を立案しグループでまとめる。	グループワーク	
第3回	妊産褥婦・新生児のバイタルサイン測定と新生児の沐浴	講義と演習	
第4回	沐浴演習 (妊婦・褥婦・新生児の健康診査・バイタルサイン測定)	演習	
第5回	看護過程③ 発表。	グループワーク	
第6回	看護過程④ 発表。	評価	
第7回	沐浴技術テスト	演習テスト	
第8回	沐浴技術テスト	演習テスト	

評価方法	<input type="checkbox"/> 試験 (       %)    ■実技試験 (40%)    ■演習評価 (20%)
	<input type="checkbox"/> 小テスト (       %)    ■レポート (40%) <input type="checkbox"/> その他 (       %)

教科書	医学書院 系統看護学講座 母性看護学各論 ナーシンググラフィカ 母性看護技術
参考図書	医学書院 ウェルネスからみた 母性看護過程 医学書院 根拠と事故防止からみた 母性看護技術 メディックメディア 病気が見える vol10 産科
留意事項	

令和8年度  
実務経験のある教員等による授業科目

看護学科 教育課程

3 専門分野

科目	第1年次		第2年次		第3年次		単位数	時間数	実務 経験
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎看護学									
看護の展開			30				1	30	◎
基礎看護技術Ⅰ	30						1	30	◎
基礎看護技術Ⅱ	30						1	30	◎
基礎看護技術Ⅲ		30					1	30	◎
基礎看護技術演習Ⅰ	45						1	45	◎
看護研究			30				1	30	◎
老年看護学									
老年看護方法論Ⅰ-1			30				1	30	◎
老年看護方法論Ⅰ-2				30			1	30	◎
母性看護学									
母性看護方法論Ⅰ-2				30			1	30	◎
母性看護方法論Ⅱ				15			1	15	◎
小計	105	30	90	75	0	0	10	300	

令和8年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
看護の展開 (実務経験のある教員等による授業科目)	水田 あき	2	1	前期	必修

◇講義概要

看護過程についての講義と事例を用いた演習を実施し、発表により学生間で意見交換を行う。

◇到達目標

1. 看護過程の構成要素（アセスメント・看護診断・計画立案・実施・評価）の意味と方法を説明することができる。
2. ゴードンの機能的健康パターンをアセスメントの枠組みとして活用し、系統的に情報収集し、アセスメントし、看護上の問題点を抽出することが出来る。
3. アセスメントに基づいた看護計画の立案が出来る。
4. 看護計画の評価の視点を理解し、説明できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	看護過程とは何か。看護過程の構成要素	講義	
第2回	アセスメント（情報収集と分析）	講義	
第3回	ゴードンの機能的健康パターンの各クラスターにおける分析について	講義	
第4回	ゴードンの機能的健康パターンの各クラスターにおける分析について	講義	
第5回	事例から実際にアセスメント用紙に記載し分析をする	講義・演習	
第6回	事例から実際にアセスメント用紙に記載し分析をする	講義・演習	
第7回	関連図とは	講義	
第8回	関連図を用いた看護診断の統合	講義・演習	
第9回	看護診断の優先順位と看護計画の目的と概要	講義	
第10回	看護計画の具体的な立案方法	講義・演習	
第11回	看護目標とは	講義・演習	
第12回	看護計画の発表	演習	
第13回	SOAP 記録について	講義・演習	
第14回	評価とは	講義・演習	

令和 8 年度 看護学科 シラバス

第 15 回	終講試験・解説	試験	
評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 ( 50 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (        %) <input type="checkbox"/> 演習評価 (        %) <input type="checkbox"/> 小テスト (        %) <input checked="" type="checkbox"/> レポート ( 50 %) <input type="checkbox"/> その他 (        %)		
教科書	系統看護学講座, 専門Ⅱ基礎看護技術 I    医学書院 基準看護計画 第4版    照林社		
参考図書	看護がみえる Vol 4 看護過程の展開    メディックメディア		
留意事項	講義後、講義内で提示した課題に取り組む(60分)適宜、講義前後に提出を指示します。		

令和8年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護技術 I コミュニケーション・記録報告 環境調整・感染予防・安全管理 (実務経験のある教員等による授業科目)	矢追裕子・山本桂・花田匡子・山内裕子	1	1	前期	必修

◇講義概要

対象者の生活環境を整える技術を習得する

◇到達目標

- 療養生活の中で、対象の生活スタイルに配慮し、室内の気候、空気の清浄性やにおい、光・音などの環境条件を整えることの必要性和看護の役割が理解できる
- コミュニケーションの特徴と、医療におけるコミュニケーションの重要性を理解できる
- 看護記録の目的と留意点、その構成が理解できる
- 医療現場における「報告・連絡・相談」の重要性を理解できる
- 感染成立の条件および院内感染防止の基本を知り、看護師が感染防止のための実践を行う重要性を理解できる
- 標準予防策・感染経路別予防策の必要性和方法を理解できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	担当者
第1回	環境調整①：療養生活の環境・病室の環境のアセスメントと調整	講義	矢追 裕子
第2回	環境調整②：ベッド周囲の環境整備	講義	矢追 裕子
第3回	環境調整③：シーツのたたみ方・ベッドメイキング	講義・演習	矢追 裕子
第4回	環境調整④：リネン交換	講義・演習	矢追 裕子
第5回	コミュニケーション技術①：コミュニケーションの意義と目的	講義・GW	花田 匡子
第6回	コミュニケーション技術②：非言語的メッセージ、傾聴技法、オープン・クエスチョン、クローズド・クエスチョン	講義・GW	花田 匡子
第7回	コミュニケーション技術③：アサーティブネス、コミュニケーション障害への対応	講義・GW	花田 匡子
第8回	感染予防に関する技術①：感染防止の基礎知識・標準予防策	講義	山本 桂
第9回	感染予防に関する技術②：感染経路別予防策	講義	山本 桂
第10回	感染予防に関する技術③：洗浄・消毒・滅菌	講義	山本 桂
第11回	感染予防に関する技術④：感染性廃棄物の取り扱い・針刺し防止策	講義	山本 桂
第12回	看護にかかわる記録・報告①：看護記録とは・記録、管理における留意点・看護記録の構成	講義・GW	花田 匡子
第13回	看護にかかわる記録・報告②：報告	講義・GW	花田 匡子
第14回	安全を守る技術	講義・GW	山内 裕子
第15回	試験 (60分)・まとめ (30分)	講義・試験	花田 匡子

評価方法	■筆記試験 ( 100 %)	□実技試験 (        %)	□演習評価 (        %)
	□小テスト (        %)	□レポート (        %)	□その他 (        %)

令和8年度 看護学科 シラバス

教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院. 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院. 基礎・臨床看護技術 第3版
参考図書	看護がみえる vol.① 基礎看護技術 メディック・メディア 看護がみえる vol.② 基礎看護技術 メディック・メディア 新版看護のコミュニケーションセンス
留意事項	講義前には当該講義部分の教科書を読んてくること(予習30分)。講義後は、該当部分の基礎・臨床看護技術の手順を読み、動画があるものは視聴すること。また、当日の概要・ポイントをノートにまとめるなど復習に励むこと。(復習60分)

令和8年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護技術Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	花田匡子・秋山理恵・山内裕子・尾崎あい	1	1	前期	必修

◇講義概要

人間の基本的欲求に基づく日常生活活動への援助技術を知り、基本的技術を修得する。

◇到達目標

- 1、生活において姿勢を保ち活動を整える意義と効果的な援助のための看護技術が理解できる
- 2、睡眠・休息の意義と必要性、安楽・安眠への援助技術が理解できる
- 3、清潔・衣生活の意義と対象の健康状態に合わせた援助技術が理解できる
- 4、排泄の意義と、ニーズに応じた援助方法の選択および看護技術が理解できる
- 5、食事と栄養の意義と必要性、ニーズに応じた援助技術が理解できる
- 6、電法・マッサージ・部分浴の意義・目的と、健康状態に合わせた援助技術が理解できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	「活動」基本的活動の援助（体位、体位変換）	講義	尾崎 あい
第2回	「姿勢・体位・活動」体位保持、移動・移乗・移送	講義	尾崎 あい
第3回	「睡眠・休息」睡眠と休息の援助	講義	尾崎 あい
第4回	「循環（電法）」体温管理の技術、末梢循環促進のためのケア	講義	秋山 理恵
第5回	「食事と栄養」①食事援助の基礎知識	講義	山内 裕子
第6回	「食事と栄養」②食事介助、摂食・嚥下訓練・口腔ケア	講義	山内 裕子
第7回	「食事と栄養」③非経口栄養摂取の援助	講義	山内 裕子
第8回	「清潔・衣生活」① 清潔の基礎知識と清潔援助の効果 患者の状態に応じた援助の決定と留意点	講義	花田 匡子
第9回	「清潔・衣生活」②病床での衣生活の援助	講義	花田 匡子
第10回	「清潔・衣生活」③ 入浴・シャワー浴・全身清拭 部分浴（足浴・手浴）	講義	花田 匡子
第11回	「清潔・衣生活」④洗髪・整容	講義	花田 匡子
第12回	「排泄」①自然排尿及び自然排便の基礎技術と介助の実際	講義	尾崎 あい
第13回	「排泄」②導尿（一時的導尿・持続的導尿）	講義	尾崎 あい
第14回	「排泄」③排便を促す援助（浣腸・摘便） ストーマケア	講義	尾崎 あい
第15回	試験（60分）・まとめ（30分）	講義・試験	山内 裕子

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験（ 100 %） <input type="checkbox"/> 実技試験（        %） <input type="checkbox"/> 演習評価（        %） <input type="checkbox"/> 小テスト（        %） <input type="checkbox"/> レポート（        %） <input type="checkbox"/> その他（        %）
------	---

教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院. 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院. 根拠と自己防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版
参考図書	必要時提示
留意事項	講義前には当該講義部分の教科書を読んできて（予習30分）。講義後は、該当部分の基礎・

令和8年度 看護学科 シラバス

	臨床看護技術の手順を読み、動画があるものは視聴すること。また、当日の概要・ポイントをノートにまとめるなど復習に励むこと。(復習 60分)
--	--

令和8年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護技術Ⅲ 与薬・包帯法・創傷管理・輸血・呼吸・診察・検査 (実務経験のある教員等による授業科目)	花田匡子・加藤若葉・山内裕子	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

診察・検査時の対象に応じた援助の基礎と、医療処置における看護の役割と具体的な方法を学ぶ
---

◇到達目標

<p>1、診察と検査の目的がわかり、診察、検査を受ける対象への看護技術が理解できる</p> <p>2、輸血・与薬の目的と意義を理解し、医療安全の視点から安全に実施するための方法と、実施時のアセスメントの視点が理解できる</p> <p>3、酸素療法・吸引・吸入の意義・目的を理解し、対象に応じた看護の役割とアセスメントの視点を考えることができる</p> <p>4、包帯法・創傷管理の意義・目的がわかり、看護の必要性が理解できる</p>
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	呼吸・循環を整える技術：酸素吸入療法	講義	山内裕子
第2回	呼吸・循環を整える技術：排痰ケア・胸腔ドレナージ	講義	山内裕子
第3回	呼吸・循環を整える技術：吸入・人工呼吸療法・末梢循環促進ケア	講義	山内裕子
第4回	診察・検査：検体検査	講義	山内裕子
第5回	診察・検査：生体情報のモニタリング	講義	山内裕子
第6回	診察・検査：診察・検査・処置の介助技術	講義	山内裕子
第7回	与薬：与薬の基礎知識、薬物療法の意義、看護師の役割	講義	加藤若葉
第8回	与薬：経口与薬・吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬の援助方法	講義	加藤若葉
第9回	与薬：注射の基礎知識と援助方法① 皮下注射・筋肉注射・皮内注射	講義	加藤若葉
第10回	与薬：注射の基礎知識と援助方法② 静脈内注射・輸液ポンプ・シリンジポンプの管理	講義	加藤若葉
第11回	輸血：輸血の意義・目的・種類・副作用・保存・投与	講義	花田匡子
第12回	包帯法と創傷の管理：創傷管理の基礎知識	講義	花田匡子
第13回	包帯法と創傷の管理：包帯法、創傷処置	講義	花田匡子
第14回	包帯法と創傷の管理：褥創予防（褥創発生のメカニズム）	講義	花田匡子
第15回	終講試験（60分）まとめ（30分）	試験・まとめ	山内裕子

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験（100%） <input type="checkbox"/> 実技試験（ % ） <input type="checkbox"/> 演習評価（ % ） <input type="checkbox"/> 小テスト（ % ） <input type="checkbox"/> レポート（ % ） <input type="checkbox"/> その他（ % ）
------	---

教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院
参考図書	適宜動画などを使用します 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術第3版 医学書院
留意事項	解剖学・生理学ともつなげて学習するように努めてください。

令和8年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護技術演習 I (実務経験のある教員等による授業科目)	矢追裕子・山本 桂・花田匡子・尾崎あい・ 秋山理恵・山内裕子	1	1	前期	必修

◇講義概要

基礎看護技術を実際に行い、安全性と安楽に考慮した手順を考える能力を修得する

◇到達目標

- 1、安全・安楽を考慮し、看護技術の必要性や対象者に応じた手順を考えることができる
- 2、対象に応じた看護技術を、科学的根拠に基づいて安全・安楽に実施できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	「コミュニケーション技術」プレゼンテーション	演習	花田 匡子
第2回	「感染予防策・記録報告」①手指衛生、個人防護用具	演習	山本 桂
第3回	「感染予防策・記録報告」②無菌操作	演習	山本 桂
第4回	「環境調整」ベッドメイキング	演習	矢追 裕子
第5回	「活動・体位・姿勢」①体位、臥床時の体位変換	演習	尾崎 あい
第6回	「活動・体位・姿勢」②ベッドから車椅子、ストレッチャーへの移乗・移送	演習	尾崎 あい
第7回	「休息・睡眠」睡眠・休息を促す援助、体位保持(ポジショニング)	演習	尾崎 あい
第8回	「清潔・衣生活」全身清拭と寝衣交換①	演習	花田 匡子
第9回	「清潔・衣生活」全身清拭と寝衣交換②	演習	花田 匡子
第10回	「清潔・衣生活」全身清拭と寝衣交換③	演習	花田 匡子
第11回	「清潔・衣生活」全身清拭と寝衣交換④	演習	花田 匡子
第12回	「清潔・衣生活」洗髪①	演習	花田 匡子
第13回	「清潔・衣生活」洗髪②	演習	花田 匡子
第14回	「清潔・衣生活」全身清拭と寝衣交換⑤	演習	花田 匡子
第15回	「清潔・衣生活」全身清拭と寝衣交換⑥ 陰部洗浄	演習	花田 匡子
第16回	「排泄」①床上排泄援助(尿器、便器)、オムツ交換	演習	尾崎 あい
第17回	「排泄」②一時的導尿援助と持続的導尿援助の実際	演習	尾崎 あい
第18回	「排泄」③グリセリン浣腸、摘便 ④ストーマケアの援助	演習	尾崎 あい
第19回	「食事と栄養」①食事援助 口腔ケア・嚥下訓練	演習	山内 裕子
第20回	「食事と栄養」②経鼻胃チューブの管理・経管栄養法	演習	山内 裕子
第21回	「循環(電法)」温電法、冷電法、マッサージ	演習	秋山 理恵
第22回	「環境調整」ベッドメイキング 技術試験	試験	矢追 裕子
第23回	「清潔援助」全身清拭と寝衣交換 技術試験	試験	花田 匡子

評価方法	□筆記試験( )% ■実技試験(100%)「ベッドメイキング」で50%、「全身清拭と寝衣交換」で各50% □演習評価( )% □小テスト( )% □レポート( )% □その他
------	---

令和 8 年度 看護学科 シラバス

教科書	系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 I 基礎看護学 2 医学書院. 系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 II 基礎看護学 3 医学書院. 基礎・臨床 看護技術 医学書院 第 3 版
参考図書	看護がみえる vol.① 基礎看護技術 メディック・メディア 看護がみえる vol.② 基礎看護技術 メディック・メディア
留意事項	演習時の服装と準備物は、担当教員から指示されたもので臨むこと。 「リネン交換」「全身清拭と寝衣交換」の技術試験は各々の試験で 6 割以上の評価を受けること をもって合格とする。

令和8年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
看護研究 (実務経験のある教員等による授業科目)	水田 あき	2	1	前期	必修

◇講義概要

看護に必要な研究的思考を身につけるために看護研究の基本的な考え方とプロセスを学び、看護の質向上に向けた研究能力の基盤を養う

◇到達目標

1. 看護研究の意義と必要性について理解する
2. 文献検索の方法を知り、実際にテーマに沿って検索できる
3. 研究のプロセスや研究デザイン、文献検討について理解する
4. 研究計画の構成要素を理解し、研究計画書（背景・動機まで）を作成できる
5. 研究論文のまとめ方を理解する
6. ケーススタディの進め方を理解できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	看護研究とは	講義	
第2回	調べたことを発表しよう	演習	
第3回	文献検索・文献クリティーク	講義	
第4回	研究における倫理的配慮	講義	
第5回	研究デザインと方法	講義	
第6回	データ収集	講義	
第7回	データ分析・実際にインタビュー	講義・演習	
第8回	実際にデータ分析・まとめ	演習	
第9回	まとめ・発表・次の研究テーマを考える	演習	
第10回	文献の整理、質問紙の作成	演習	
第11回	データの収集・分析を実際に行う	演習	
第12回	研究成果をまとめる①	演習	
第13回	研究結果をまとめる②	演習	
第14回	研究結果を伝える（発表）	演習	
第15回	終講試験（60分）・まとめ（30分）	試験/まとめ	

評価方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験（ 50 %）	<input type="checkbox"/> 実技試験（        %）	<input type="checkbox"/> 演習評価（        %）
	<input type="checkbox"/> 小テスト（        %）	<input type="checkbox"/> レポート（ 50 %）	<input type="checkbox"/> その他（        %）

教科書	看護研究、医学書院、2024
参考図書	
留意事項	講義前には、教科書の該当ページを読んでおくこと。 講義後はレジュメとまとめプリントを学習すること。

令和8年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
老年看護方法論Ⅰ-1 (実務経験のある教員等による授業科目)	阪本 由美	2	1	前期	必修

◇講義概要

<p>教育目的 加齢に伴う障害や疾病をもつ高齢者の生命維持・健康回復促進のための看護の基礎知識・技術を習得する。</p> <p>授業概要 老化による障害や疾病を持つ高齢者の生命維持、健康維持のための看護の必要性を判断し、実践の方法を習得する。</p>
---

◇到達目標

<p>1. 高齢者の生活機能や生理的特徴を理解する。</p> <p>2. 高齢者特有の症状の現れ方や罹患しやすい疾病に関連づけて学び、高齢者の QOL を高める具体的な看護の知識・技術を理解する。</p> <p>3. 生活・療養の場における高齢者の看護を理解する。</p> <p>4. 高齢者のリスクマネジメントを理解する。</p>
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	高齢者の生活機能を整える看護	講義・GW	
第2回	日常生活を支える基本的活動（転倒のアセスメントと看護）	講義・GW	
第3回	日常生活を支える基本的活動（廃用症候群のアセスメントと看護）	講義・GW	
第4回	食事・食生活と看護	講義・GW	
第5回	排泄の看護	講義・GW	
第6回	清潔の看護	講義・GW	
第7回	高齢者の生活リズムとコミュニケーション	講義・GW	
第8回	症候のアセスメントと看護（発熱）	講義・GW	
第9回	症候のアセスメントと看護（痛み・掻痒）	講義・GW	
第10回	症候のアセスメントと看護（脱水・浮腫・倦怠感）	講義・GW	
第11回	症候のアセスメントと看護（倦怠感・うつ・せん妄）	講義・GW	
第12回	治療を必要とする高齢者の看護（検査・手術・リハビリテーション）	講義・GW	
第13回	エンドオブライフケア	講義・GW	
第14回	高齢者のリスクマネジメント (高齢者と医療安全・救命救急・高齢者と災害)	講義・GW	
第15回	まとめ 終講テスト	講義	

評価方法	<p>■筆記試験（ 90 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %）</p> <p>■小テスト（ %） □レポート（ %） □その他（ 10 %）</p>
------	--

教科書	<p>系統看護学講座、専門Ⅱ、老年看護学、医学書院。</p> <p>系統看護学講座、専門Ⅱ、老年看護学 病態・疾患論、医学書院</p>
参考図書	授業の中で、必要に応じて提示します
留意事項	授業前に該当範囲の予習（テキスト学習）30分をすること。授業後、レジメ復習、小テストのやり直し（30分）をすること。小テストのやり直しは、適宜提出を指示する。

令和 8 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
老年看護学方法論 I - 2 (実務経験のある教員等による授業科目)	阪本 由美	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

老化による障害や疾病を持つ高齢者の生命維持、健康維持のための看護の必要性を判断し、実践の方法を習得する
---

◇到達目標

1. 高齢者の疾病・障害の特徴を理解する
2. 加齢変化と高齢者に多い疾患と治療を関連づけて学び、具体的看護の知識・技術を理解する

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第 1 回	老年看護に求められるものとは (高齢社会の現状・高齢者医療の現状)	講義	
第 2 回	高齢者の生理的特徴 (老化と寿命・身体的変化)	講義	
第 3 回	老年症候群の特徴 (各器官の生理的变化) うつ・せん妄	講義	
第 4 回	認知症の概念、症状と診断基準、治療について	講義	
第 5 回	高齢者のフィジカルアセスメント (CGA とは、方法と理解)	講義	
第 6 回	高齢者のフィジカルアセスメント (方法と注意点)	講義	
第 7 回	高齢者に起こる脳血管疾患	講義	
第 8 回	高齢者に起こる脳血管疾患	講義	
第 9 回	高齢者にみられる疾患の特徴	講義	
第 10 回	高齢者にみられる疾患の特徴	講義	
第 11 回	高齢者にみられる疾患の特徴	講義	
第 12 回	高齢者にみられる疾患の特徴	講義	
第 13 回	高齢者にみられる疾患の特徴	講義	
第 14 回	高齢者と薬・高齢者のリハビリテーションについて	講義	
第 15 回	まとめ (30 分)・終講試験 (60 分)	講義・試験	

評価方法	■筆記試験 ( 90% )	□実技試験 (            % )	□演習評価 (            % )
	□小テスト (            % )	□レポート (            % )	■その他 ( 10 % )

教科書	系統看護学講座：老年看護学 (専門 2)・病態、疾患論
参考図書	授業の中で紹介します
留意事項	<p>*教科書を持参してください。教科書中心に講義を進めます。</p> <p>*授業の進行に合わせたまとめテストを適宜実施します。授業前に該当箇所のテキストを読む (30 分)。授業終了後レジメの復習、小テストのやり直しを実施すること。(30 分)</p> <p>*グループワークは適宜行います。</p>

令和8年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
母性看護方法論 I-2 (実務経験のある教員等による授業科目)	矢追 裕子	2	1	後期	必修

◇講義概要

教育目的 分娩期・産褥期の産婦・褥婦・および新生児の社会的、心理的、身体的変化への適応を理解するとともに、産婦のセルフケア能力をアセスメントし、母子と家族へ健康障害の予防や健康増進を促す看護援助を学ぶ。

授業概要 産褥婦・新生児期の特徴を理解し、母子を取り巻く環境をふまえた看護援助を学ぶ。

◇到達目標

- 1、分娩期・産褥期の産婦の社会的、心理的、身体的変化とそれらへの適応を理解する。
- 2、分娩期・産褥期の産婦のセルフケアや健康障害の予防、健康増進を促す看護援助を理解する。
- 3、分娩期・産褥期の母子の家族への看護援助についても理解できる。
- 4、新生児の子宮外生活への適応と看護援助について理解できる。
- 5、産婦・褥婦の親役割の習得過程及び親子関係形成への看護援助について理解できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	分娩期に関する基礎知識（分娩の定義・分娩の3要素・分娩の機序）	講義・GW	矢追 裕子
第2回	分娩の経過（正常分娩の経過・分娩時の母体と胎児の変化・分娩監視装置）	講義・GW	矢追 裕子
第3回	分娩期における看護	講義・GW	矢追 裕子
第4回	分娩の異常と看護（陣痛の異常 産道の異常 回旋異常 胎児機能不全 遷延分娩 弛緩出血）	講義・GW	矢追 裕子
第5回	産褥期における身体的変化・心理社会的変化	講義・GW	矢追 裕子
第6回	産褥期における看護	講義・GW	矢追 裕子
第7回	産褥期におこりうる異常とその対応（子宮復古不全 子宮内感染症 乳腺炎 血栓症 マタニティブルーズ 産後うつ） 帝王切開術前後の看護	講義・GW	矢追 裕子
第8回	新生児期の生理的变化（出生直後の呼吸・循環の変化 胎外生活への適応）	講義・GW	矢追 裕子
第9回	新生児期における看護（出生直後のケア 入院中の看護 検査）	講義・GW	矢追 裕子
第10回	新生児期の栄養と授乳・母乳育児支援	講義・GW	矢追 裕子
第11回	新生児期の身体計測・バイタルサイン測定・沐浴	演習	矢追 裕子
第12回	新生児期におこりうる異常とその対応（分娩時外傷 高ビリルビン血症 低出生体重児 呼吸障害 低血糖 低体温 ビタミンK欠乏性出血症）	講義・GW	矢追 裕子
第13回	分娩期・産褥期・新生児期の看護のまとめ	講義・GW	矢追 裕子
第14回	実技試験（沐浴）	試験	矢追 裕子
第15回	終講試験【60分】・まとめ【30分】	試験+まとめ	矢追 裕子

令和8年度 看護学科 シラバス

評価方法	■筆記試験 ( 50 %)	■実技試験 ( 30 %)	□演習評価 ( %)
	□小テスト ( %)	■レポート ( 20 %)	□その他 ( %)

教科書	<p>系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院          母性看護学Ⅱ 周産期各論 第3版 医歯薬出版          根拠がわかる母性看護技術 南江堂</p>
参考図書	<p>メディックメディア 病気が見える vol 10 産科          医学書院 根拠と事故防止からみた 母性看護技術 (第3版)</p>
留意事項	<p>事前学習          家族に自分が生まれたときの話を聞いてくる。自分の母子健康手帳や自分の子どもの母子健康手帳を探して見ておく。自分の臍帯の箱もあれば外書き及び中身を見ておく。          該当箇所の教科書(母性看護学Ⅱ 医歯薬出版)を講義までに読んでおくこと。</p> <p>レポート(提出日は講義時に指定する)          (第1回～第4回)          「分娩期のまとめ」(実習の事前学習)を作成する。          (第5回～第7回)          「産褥期のまとめ」(実習の事前学習)を作成する。          (第11回)          第11回までに身体計測・新生児のバイタルサイン・沐浴の具体的援助策を作成する。(手書き)          (第8回～第12回)          「新生児期のまとめ」(実習の事前学習)を作成する。</p>

令和8年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
母性看護方法論Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	矢追 裕子	2	1	後期	必修

◇講義概要

周産期にある母体の生理的变化と胎児・新生児の成長・発達や胎外生活適応への過程に関する理解を踏まえ、母体及び胎児・新生児のより良い健康を保持・強化するためのアセスメントを行って看護過程を展開する。演習を通して周産期看護に必要な看護技術を習得する。

◇到達目標

- (1) 妊婦・産婦・褥婦および新生児の各期の経過を理解できる
- (2) ウェルネスの視点で、母子とその家族のセルフケア能力のアセスメントを行い、正常な経過をたどれるように看護を展開できる。
- (3) 周産期にある対象に援助を実施するための基本的な能力を養う。  
(モデル人形を用いて沐浴ができる。)

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	看護過程① 母性アセスメント用紙の書き方 情報収集	グループワーク	
第2回	看護過程② 看護問題 事例の情報収集 看護過程の展開 アセスメント用紙 関連図 看護問題 看護計画を立案しグループでまとめる。	グループワーク	
第3回	妊産褥婦・新生児のバイタルサイン測定と新生児の沐浴	講義と演習	
第4回	沐浴演習 (妊婦・褥婦・新生児の健康診査・バイタルサイン測定)	演習	
第5回	看護過程③ 発表。	グループワーク	
第6回	看護過程④ 発表。	評価	
第7回	沐浴技術テスト	演習テスト	
第8回	沐浴技術テスト	演習テスト	

評価方法	<input type="checkbox"/> 試験 (       %)    ■実技試験 (40%)    ■演習評価 (20%)
	<input type="checkbox"/> 小テスト (       %)   ■レポート (40%) <input type="checkbox"/> その他 (       %)

教科書	医学書院 系統看護学講座 母性看護学各論 ナーシンググラフィカ 母性看護技術
参考図書	医学書院 ウェルネスからみた 母性看護過程 医学書院 根拠と事故防止からみた 母性看護技術 メディックメディア 病気が見える vol10 産科
留意事項	